花鳥風月・俳句

電線に落ち穂拾いの鳥仲間

高橋恵子

冬仕度落穂ひろいのスズメ舞い

高橋学

田の株の飛び立つスズメ茅の中

今城宏子

新米や汗の結晶塩むすび

曽我部福石

一軒や包みて冬の夕茜

水澄んで魚も石もうごかさる

子供らと皮むぎ里の柿つるす

青空を仰ぎ憲法記念の日

健康は働く動く歩く事

明星　勲

山里に今日も朝から大根干す

小春日や父の歩幅の狭きこと

小野　弘幸

孫訪ねめぐるキャンパス秋うらら

小野　宮子

喫茶店話しはずむや秋うらら

菜園の茎の匂いや新生姜

越智　和人

隣人と並び眺めり十三夜

鈴木　伊都美

青空や野菊のつづく散歩径

仏前に陽のあたる様黄の小菊

久方の面会の夫石蕗の花

小林　泰子

どんぶりにアジの酢漬けや舌つづみ

秋晴れやアジの酢漬けの旨さかな

石井　トシ子

菊花展けんがいの花凛々しくて

帰り咲き孫を想うか花桃よ

ひらひらと蝶のごとくに散る紅葉

落合　敦

小屋の軒蜂の一団巣を守る

晩秋の蚊しぶとく寄りて気を散らす

塗塀　良子

高値なる檸檬不作に娘は嘆き

茶の花の足止めさせる白さかな

枝打のコーンコーンと高き音

小田　慶喜

青空の包み込むやう冬紅葉

冬耕のざくりと鍬の打つ地球

スキップをせし園児過ぎ白秋忌

蓮根掘る泥付く顔の頼もしさ

小田　和子

叙勲せし友の名叫ぶ文化の日

テレビ消し秋の夜長はクイズ漬け

岡田節アレのアレ手に良夜かな

徳永　誠一